

# アフリカ子どもの本プロジェクト(JACBOP)

## 2021 年度活動報告

### 1、概況

2004年に設立した私たち「アフリカ子どもの本プロジェクト」は、18年目を迎えました。

特にコロナ禍に見舞われてからは、運営会もオンラインとなり、なかなか思うような活動ができなくなりましたが、細々とながらも、多くの会員や協力者に支えていただきながら ①アフリカに設立したドリーム・ライブラリー（子ども図書館／現在ケニアに2館）を継続的に支える。②識字や楽しみのための本を必要としているアフリカの子どもたちがいれば、そこに本を届ける。③日本の子どもたちに、アフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝える。という3つの活動を根気強く続けてまいりました。こういう中で活動を続けてこられたのも支援者の方々があってのことと、厚く御礼申し上げます。

①については、エンザロとシャンダの二つのライブラリーを現地との連絡をとりながら支え続けております。現地との連絡については、人類学者の松田素二先生と先生のお仲間のオディングさん、モーニさんに手伝っていただいています。②については、コロナ禍で渡航が難しいなか件数は少なかったのですが、ケニアのキサジュ地域にある小学校に児童書を寄贈しました。③については、やはりコロナ禍で図書展の開催が難しいなか鳥取県ユニセフ協会が図書展を開催してくださいました。また、おすすめ本が増えてきて、各地で図書展を開催していただく団体への送付に支障をきたすようになったことから、セット内容の見直しも行いました。日本の子どもたちとアフリカの子どもたちをつなぐために日本で刊行された児童書をすべて読んだ選書会は、どの回もオンラインで行い、おすすめ本を決めると同時にSDGsとの関連についても話し合いました。

2021年度は定例会をオンラインで9回、作業での集まりをリアルで1回開き、ケニアの図書館の支援、展示セットの見直し、選書などについて話し合いを続けてまいりました。定例会・選書会のご報告は毎回会員の方にはメールで「プロジェクト・ニュース」を差し上げておりますし、会員の中には、本を読んだ感想を寄せてくださる方もいらっしゃいます。メールだけではなく、ブログ、フェイスブック、インスタグラムなどでの広報も続けておりますが、今後はもう少し発信を増やしていきたいと思っております。

### 2、会員数

2020年度末の会員数は99名、2021年度末は101名でした。

### 3、2021年度活動報告(2021.4-2022.3)

#### 3-1 運営会の開催

今年度はオンライン（zoom）で9回開催しました。アフリカへの支援、選書、展示セットの入れかえ、おすすめの本のSDGs表示等を話し合いました。

#### 3-2 ドリーム・ライブラリー等の支援

##### 1) ケニアのドリーム・ライブラリーについて

ケニア西部のエンザロとシャンダにある二つのドリーム・ライブラリーを支えることは、私たちのプロジェクトの3つの柱の一つです。現地にはなかなか行くことができないため、松田素二先生にお願いし、研究フィールドに行く折に二つのライブラリーを訪問して、現地の様子や要望を伝えていただいています。しかし、一昨年の春から続く新型コロナ感染症のまん延で松田先生も2年にわたりアフリカに行くことができず、もっぱら松田先生のお仲間のオディングさんに連絡・調整役として活躍していただきました。松田先生は2021年3月に京都大学を退職されましたが、総合地球環境学研究所でアフリカ研究を続けておられ、引き続き現地の情勢の提供や助言などを通してケニアとプロジェクトを繋ぐ役割をお願いしております。

エンザロ図書館では2020年4月に電気工事が完成して以来、密を避けて利用者を受け入れるため開館時間の延長をしていましたが、6月に新しい教科書（エンザロ39冊、シャンダ45冊）も購入でき、2021年度も引き続き時間の延長を続けていました。（写真1）

近隣からの利用者も増加しており、そのため7月に椅子と机を増やしたいという要望があり、13,200シリング送金しました。8月には、文房具等の購入に充てるため7,100シリングを両館に送金。

10月にはエンザロ図書館委員会が開かれ新しい委員長にデイヴィッド・アシエマさんが就任しました。前任のアレンゴさんは地元の実力者ではありましたが、公私混同されることが多く困っていたので、新しい体制に期待したいと思います。

遅れていたシャンダの電気工事は、7月に見積もりが提出され、21,640シリング送金しました。シャンダの図書館委員会と工事の監督を務めるオディングさんの調整がなかなかつかず遅れましたが、無事完了しました。

毎月エンザロのライブラリアンのピーターさんに10,000シリング、シャンダのアイリーンさんに8,000シリング、医療保険の負担分500シリング、年金の雇用者負担分200シリングをプラスして支払っています。エンザロ図書館では電気が灯ったことや利用者の緊密化を避けるため引き続き開館時間を延長しており、その分の超過勤務手当は常態化しており、ピーターさんの給料は実質12,000シリングとなっています。両方の図書館に新聞購読料として1,860シリング、そのほか、新聞販売店が近くにないエンザロについては、新聞配達交通費として1,500シリングを定期的にお渡ししています。

また、ケニアでの連絡・調整や給料の支払いを担当して下さっているオディングさんには交通費や払込の手数料等として毎月3,000シリングをお渡ししていますが、調整役として両館に出向く回数も多く、別途交通費の実費をお渡ししています。

こうした困難な状況の中、6月にはアイリーンさんのお母様が亡くなられ3,000シリングのお香典を、また、9月にはオディングさん自身が結核になって療養、モーニさんの奥様、娘さんの入院などが続き、お2人にお見舞いとして各5,000シリングお送りしました。

2022年2月に入り、ケニアでは物価上昇が激しく生活が苦しくなっているという状況から3月から4月にかけてライブラリアンから給料アップや給料の前借ローンの要望が出されました。松田先生に相談し、ローンの額や返済方法などの条件、給料アップに関しては毎月報告される図書館リポートの内容の確認などJACBOPからの要望も含め覚書にサインをもらいました。

2022年4月にそれぞれに20,000シリングのローン、5月から給料アップを実施します。ピーターさんは13,000シリング、アイリーンさんは10,000シリングになります。ピーターさんの給料に関しては2年間の開館時間の延長による超勤をどのように考えるかの認識の違いがありましたが、今後開館時間の延長は原則行わないということで合意しています。

2004年に設立したエンザロ・ドリーム・ライブラリーと2008年に設立したシャンダ・ドリーム・ライブラリーは、ともに週に5日半開館しています。

エンザロ図書館：火曜～土曜 9:00～17:00 日曜 14:00～17:00

シャンダ図書館：火曜～土曜 9:00～16:00 日曜 14:00～16:00

またそれぞれの図書館についていろいろな話し合いをするために、地元では折に触れ図書館委員会が開かれています。遠くから通ってくる委員や、仕事を休んで参加する委員もいるので、お茶菓子代として、図書館委員会が開催されるごとに3,000シリング援助しています。現地からのレポートでは、2021年度中にエンザロ図書館では2回、シャンダ図書館は集会の禁止等もあり、1回の開催でした。

2021年のドリーム・ライブラリーの利用状況は以下のとおりです。

**エンザロ・ドリーム・ライブラリー 報告者：ピーター・インブーカ (11月12月のデータは未着です)**

利用者別人数 (単位：人)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
幼児	249	339	479	333	260	340	358	454	441	387			3640
プライマリー 生徒	274	330	361	345	233	330	308	406	443	367			3397
セカンダリー 生徒	210	226	452	424	191	237	243	272	256	250			2761
おとな	318	304	379	462	416	501	524	584	592	549			4629
合計	1051	1199	1671	1564	1100	1408	1433	1716	1732	1553			14427
開館日数 (単位：日)	22	26	24	28	24	25	25	26	25	26			251

**シャンダ・ドリーム・ライブラリー 報告者：アイリーン・ナムニュ**

利用者別人数 (単位：人)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
幼児	57	102	51	15	209	100	92	103	92	92	71	715	1699
プライマリー 生徒	1780	1511	1207	851	1072	820	1210	1307	1430	1452	1502	1706	15848
セカンダリー 生徒	79	62	71	630	510	112	230	271	205	219	119	232	2740
おとな	51	16	32	61	78	78	103	123	131	132	25	67	897
合計	1967	1691	1361	1557	1869	1110	1635	1804	1858	1895	1717	2720	21184
開館日数 (単位：日)	26	22	26	25	26	21	25	26	25	26	25	26	297

**2) その他の支援 (写真2)**

日本体育大学にて特別研究員としてウガンダの体育教育に関わるプロジェクトに携わってこられた山口真緒さんが、ケニアで活動する NPO 団体のインターンとして4月から8月児童保護の活動に携わるとのことで、英語絵本の寄贈依頼を受けました。22冊寄贈し、現地に持参していただきました。

活動終了後にエンザロ図書館に持参する計画は叶いませんでしたが、その代わりに、マチャコスの近くにあるキサジュという地域にある Kaputiei 小学校に絵本を寄付していただきました。

**3-3 アフリカのことを知らせる活動**

当プロジェクトが選ぶアフリカについてのおすすめ児童書を集めた「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」は、コロナ禍においても、1箇所で開催していただくことができました。

**・鳥取県ユニセフ協会 (写真3)**

会期：2021年7月30日(月)～8月22日(日)

会場：隼 lab. (鳥取県八頭郡八頭町見槻中 154-2)

一般に開放されている図書室の一部での展示。

期間中に、アフリカ玩具のマンカラ作り、セネガル布の小物作り、絵本の読み聞かせなどのイベントを開催したそうです。翌年も同じように開催したいということで、2022年夏の予約もいただきました。

なお、セットに入れる本がまた増えて145冊となっていました。発送するときに重量オーバーになってしまうため、セットに入れる本は新しい本を中心にしぼろうということで、11月の定例会でさんざん悩みながら話し合い、121冊に絞り込みました。現在は12月以降に選書した本が、それに加わっています。なお、ウェブのおすすめ本のページには、すべてのおすすめ本を掲載しています。

### 3-4 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の選書

・ホームページの「おすすめの本」コーナー、「おすすめの本リスト PDF」には、2022年3月までに選んだ本が入っています。

\*選書会を4月～12月に7回開催。

29冊検討し、10冊を「おすすめリスト」に入れることになりました。

10冊の解題を分担して執筆し、ホームページにアップしました。

オンラインになって、地方の方も定例会に参加できるようになり、メールでご意見を送って下さる方も増えたので、これからもぜひ皆さんご参加ください。

### 2021年

4月 6冊検討 「おすすめリスト」に入れる本はなし。

5月 4冊検討 3冊を「おすすめリスト」に入れる。

『義足と歩む〜ルワンダに生きる日本人義肢装具士』松島恵利子著 汐文社

『みずをくむプリンセス』スーザン・ヴァーデ文 ピーター・H・レイノルズ絵 さくまゆみこ訳 さ・え・ら書房

『希望、きこえる？〜ルワンダのラジオに子どもの歌が流れた日』榮谷晶子著 汐文社

7月 4冊検討 1冊を「おすすめリスト」に入れる。

『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』山極寿一著 家の光協会

8月 5冊検討 1冊保留。3冊を「おすすめリスト」に入れる。

『この世界からサイがいなくなってしまう〜アフリカでサイを守る人たち』味田村太郎著 学研プラス

『オマルとハッサン〜4歳で難民になったぼくと弟の15年』ヴィクトリア・ジェミスン作 オマル・モハメド原案 中山弘子訳 合同出版

『雪山のエンジェル』ローレン・セントジョン作 さくまゆみこ訳 評論社

10月 4冊検討。1冊保留。1冊を「おすすめリスト」に入れる。

『地球の仲間たち スリランカ/ニジェール』開発教育を考える会編 ひだまり舎

11月 5冊検討。1冊保留。1冊を「おすすめリスト」に入れる。

『オノモロンボンガ〜アフリカ南部のむかしばなし』アルベナ・イヴァノヴィッチ＝レア文 ニコラ・トレーヴ絵 さくまゆみこ訳 光村教育図書

12月 1冊検討。1冊を「おすすめリスト」に入れる。

『2枚のコイン〜アフリカで暮らした3か月』ヌリア・タマリット作 吉田恵訳 花伝社

\*選書会で選んだ図書は、家の光協会、学研プラス、花伝社、合同出版、さ・え・ら書房、汐文社、ひだまり舎、評論社、光村教育図書の各社（50音順）よりご寄贈いただきました。今後の図書展で展示させていただきます。ありがとうございました。

\*おすすめ本にSDGsを付ける検討会を1月～3月に開催。

ウェブに公開しているおすすめ本にSDGsを付けることにより、もっと多くの人に検索してもらえるようにしよう、という案が出て検討を始めました。2022年度に全体を見直してホームページに公開する予定です。

1月 物語絵本とノンフィクションの社会問題の本について検討

2月 ノンフィクションの歴史・伝記、地理、文化・暮らし、動物の本について検討

3月 児童文学について検討。昔話はSDGs対象外とした。

### 3-5 支援グッズの製作・販売（写真）

絵はがき（5枚セット）、トートバッグ、マスキングテープ、Tシャツ、『エンザロ村のかまど』スワヒリ語版、英語版等を、年会費の納入の際、会員の方にご購入いただきました。

### 3-6 ホームページの更新

今年度も、メールによるプロジェクト・ニュース配信のほか、ホームページ <http://africa-kodomo.com/>、フェイスブック (<https://www.facebook.com/africachildrenbooks>)、インスタグラム ([https://www.instagram.com/africa\\_kodomo/](https://www.instagram.com/africa_kodomo/))等による情報発信を行いました。

フェイスブックページでは、2022年5月15日現在、「いいね！」をクリックして下さった方は516名（昨年よりも約40名増加）、Instagramでは191名（昨年より約10名増加）のフォロワーがいます。

ホームページとのリンクを含め、今後も活動のようすを伝えていくよう、内容を充実していきます。

### 3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールにより、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに9回発信しました。

## 4、2021年度決算報告（2021.4.1～2022.3.31）

（会員のみ公開）

## 5、2022年度予算（2022.4.1～2023.3.31）

（会員のみ公開）

#### 連絡先

アフリカ子どもの本プロジェクト

〒399-5503 長野県木曾郡大桑村長野 1517-5 さくま方

メールアドレス： [amai\\_3@yahoo.co.jp](mailto:amai_3@yahoo.co.jp)

ホームページ： <https://africa-kodomo.com>

フェイスブック： <https://www.facebook.com/africachildrenbooks>

インスタグラム： [https://www.instagram.com/africa\\_kodomo/](https://www.instagram.com/africa_kodomo/)